



工事中  
NOW

2018.7 旧工場棟の解体工事完了へ  
ごみピット部分の整地

現在のごみピット部分などの整地作業が行われています。整地後、この部分は芝生広場になり、写真の左手前に10月から新管理棟の建設が始まります。旧事務棟と旧プラットホーム(右)は、環境啓発施設として再利用するため、平成31年度からリニューアル工事に入ります。

エコマルシェ情報

6月10日(日)、台風が近づく悪天候の中、施設内で第4回エコマルシェが開催され、約550名の来場者で賑わいました。クリーンセンターの屋上菜園で収穫したじゃがいもをふかして配布したり、国産小麦使用のパンや焼き菓子の販売、リターナブルびん活用の飲み物販売など、エコで楽しい屋台が並びました。おもちゃと絵本の交換会「かえっこ」や特別見学ツアー(プラットホーム・屋上)も盛況でした。

今年度エコマルシェは、9月16日(日)、12月9日(日)に開催を予定しています。クリーンセンターのイベント情報は、武蔵野クリーンセンターホームページをご覧ください。(http://mues-ebara.com/)



左:「えほんのかえっこ」では読み聞かせタイムもあります。

下:屋上菜園のじゃがいもはホクホク!



クリーンセンター本格稼働と安全な操業を

運営協議会会長 狩野耕一郎

昨年(平成29年)4月稼働開始した新しいクリーンセンターでは、最新の設備によりごみ処理が円滑に行われています。前号で掲載したように、多くの市民にごみについて知ってもらうよう、ごみ処理の他に施設見学やイベントが実施されています。一方、昨年11月以降5回に及ぶ不燃・粗大ごみ処理施設での発煙・発火事故については、発生ゼロとすべく7月1日までに抜本的な改善が図られました。今後ともライターや電池類を除去するための方策を徹底すべきです。

平成30年度 運営協議会委員	
会 長	狩野耕一郎 (緑町三丁目町会)
副 会 長	島森 和子 (北町五丁目町会)
会 計	早川 峻 (北町五丁目町会)
	藻谷 征子 (緑町三丁目町会)
会計監査	興梠 信子 (武蔵野緑町パークタウン自治会)
	大平 高司 (緑町三丁目町会)
	高橋 豊 (北町五丁目町会)
	千綿 澄子 (武蔵野緑町二丁目第2アパート)
	木村 文 (武蔵野緑町パークタウン自治会)
	荻野 芳明 (環境部参事)
	和地 稔 (クリーンセンター所長)

●平成29年度 運営協議会 決算

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000円	事務費	5,292円
その他の収入	37,503円	広報費	313,539円
前年度繰越金	8,386円	事業費	435,815円
		会議費	0円
		備品費	0円
		交際費	0円
		予備費	0円
計	1,045,889円	計	754,646円
市への返却金		291,243円	

●平成30年度 運営協議会 予算

収 入		支 出	
市補助金	1,000,000円	事務費	10,000円
その他の収入	60,000円	広報費	375,000円
		事業費	625,000円
		会議費	5,000円
		備品費	40,000円
		交際費	5,000円
		予備費	0円
計	1,060,000円	計	1,060,000円

編集・発行/武蔵野クリーンセンター運営協議会  
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5  
武蔵野クリーンセンター内  
電話: 0422-54-1221  
●武蔵野市ホームページ  
http://www.city.musashino.lg.jp/

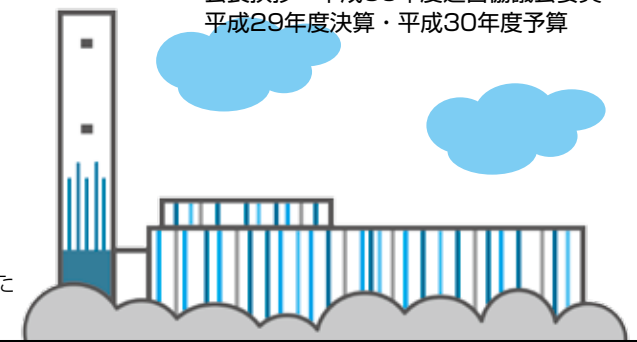
\*この広報は、再生紙を使用しています。

# 武蔵野クリーンセンター 運営協議会 だより 70

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは  
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

CONTENTS

- P1...クリーンセンターの発煙・発火事故
- P2...安全対策としての設備改修
- P3...リチウムイオン電池の火災にご注意!
- P4...工事中NOW エコマルシェ情報  
会長挨拶 平成30年度運営協議会委員  
平成29年度決算・平成30年度予算



## クリーンセンターの発煙・発火事故

新しいクリーンセンターの不燃・粗大ごみ処理施設で、昨秋から発煙・発火事故が続いており、市は調査をして対策を進めています。

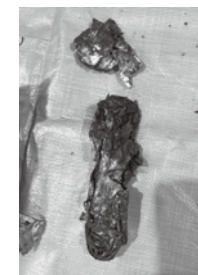
発煙事故などが発生すると、工事中のため施設内に入れない多くの消防車が施設南側道路を封鎖することやサイレンの音も周辺住民を不安にします。なぜ事故が続くのか、原因や対策はどうなっているか、周辺住民の不安が広がりました。

クリーンセンターでは事故発生後、ただちに運転停止、初期消火、消防署に通報、鎮火後に原因の調査、安全確認をして、翌日から運転を再開しました。幸い怪我人や設備の大きな破損はありませんでした。いくら安全対策をしても、ごみの出し方によっては危険な事故が起こります。なくてはならないごみ処理施設を安全に大切に運転するためには、市民の協力が必要です。

どうして有害ごみが  
入っているの?



平成30年2月22日の粗破砕物  
搬送コンベヤ上の燃え殻



6月12日の事故の際に発見  
された、卓上カセットコン  
ロ用ガスボンベの燃え殻

新しいクリーンセンターの事故

年月日	事故の場所	事故の状況、原因など
平成29年 11月22日	不燃・粗大ごみ処理施設 の集じん内ダクトで発煙。	初期消火後、消防隊の消火により鎮火。ダクトの曲がり部分に溜まった粉じんが破砕中 に出る火花などが引火し、発煙したものと考えられる。
12月7日	不燃・粗大ごみ処理施設 のピット内で、小規模火 災発生。	運転員が監視している際、早期発見し、初期消火により鎮火。原因は不明。
平成30年 2月22日		昼12時15分発火。一時的に焼けた臭いが周辺に流れた。初期消火後、消防隊の消火により 午後3時過ぎに鎮火。コンベヤ上の燃え殻を調査したが、原因は不明。
4月23日	不燃・粗大ごみ処理施設 地下2階の粗破砕物搬送 コンベヤ内で発煙・発火。	午前11時30分、事故発生。初期消火後、消防署の消火により、12時55分鎮火。原因は、 不燃ごみ中にリチウムイオン電池や小型ライターの混入が考えられる。リチウムイオン 電池が破砕される際に発火し、プラスチックなどに引火、発煙したものと推測される。
6月12日		午前11時30分頃、事故発生。不燃ごみ中に混入していたボンベと電池が装備された卓 上カセットコンロが発火の原因とみられている。

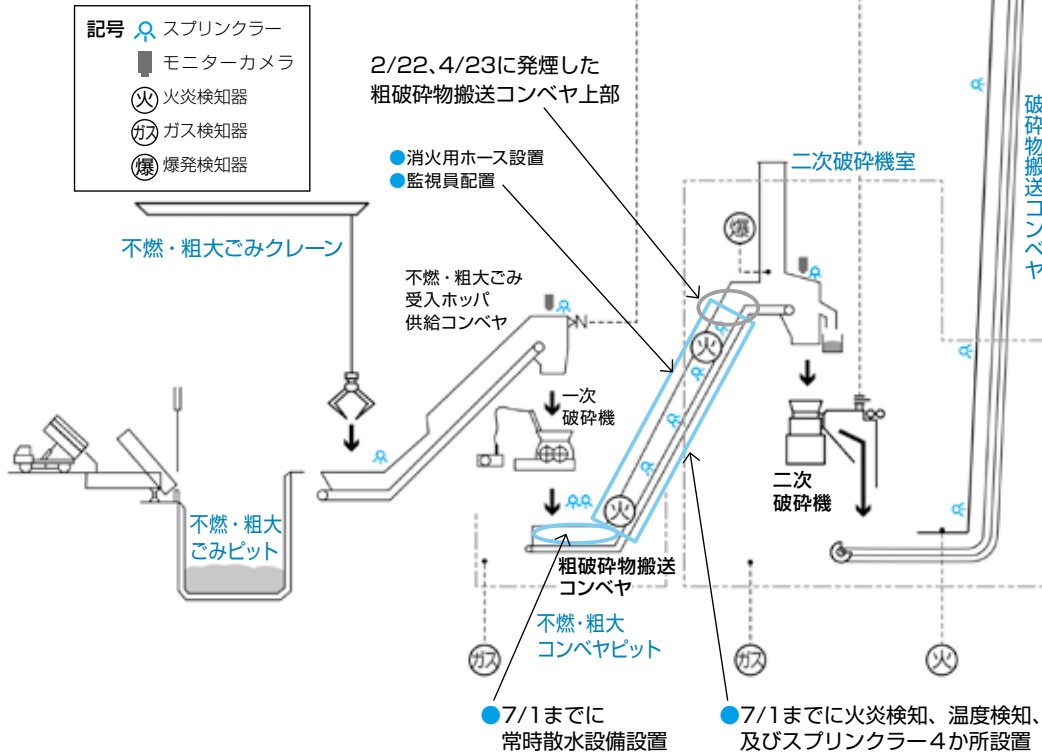
\*編集後記\*

特集は、クリーンセンターの発煙・発火事故。私たちの生活に欠かせない家電製品ですが、生活の豊かさや便利さの一方で、使った後始末も考えなくてはと思われ知らされました。近隣住民の理解の上につくられ、市民の財産であるクリーンセンターを大切にしていきたいものです。(大平高司)



# 安全対策としての設備改修

集められた不燃ごみや粗大ごみは、一次破砕機と二次破砕機によって細かく砕かれた後、資源となる金属類を回収する選別設備に運ばれます。事故の安全対策は、粗破砕物搬送コンベヤを中心に改修されました。



## 旧工場と新工場の処理方法の違い

旧工場は、1時間に10トンの処理能力がある高速破砕機で一気に処理したため、破砕時に火花が発生し、ガスボンベなどに引火して爆発事故が起きていました。また、不燃ごみピットやコンベヤなどでの火災もありました。爆発事故により、設備が壊れ、改修に大きな費用がかかりました。

新工場は、ごみ量の減少により1時間に2トンの処理能力がある低速2軸破砕機で、破砕時に火花を発生しにくい構造にして、爆発事故対策を行いました。また、コンベヤ内の火災対策として、破砕後のコンベヤに散水装置を設置しています。

しかし、不燃ごみ中にリチウムイオン電池などの電池類やボンベなどの有害ごみ類が混入することにより、発煙・火災事故が起きています。

## 設備の改修と安全対策

武蔵野市は、火災発生の可能性のあるコンベヤに火災検知器とスプリンクラーなどを増設して迅速に自動消火できる設備へ改修し、7月1日までに工事を完了しました。

また、予防対策として、粗破砕物搬送コンベヤと破

砕物搬送コンベヤの上流部に常時散水設備を設置しました。

設備改修までの安全対策として、不燃ごみ搬入と投入時の監視を強化、破砕機上部からの散水を適宜行うとともに、4月24日から粗破砕物搬送コンベヤを人による常時監視、運転中立ち入り禁止区域にカメラを設置し常時監視、火災発生時に直ちに消火できるよう消火用ホースを設置し、対応しました。

リチウムイオン電池や小型ライターなどについては、不燃ごみ収集時にごみ袋内部の確認を強化して、発火源となるものの除去をしています。また、6月19日から7月12日まで、収集した不燃ごみを旧工場棟プラットホームに広げて、人海戦術で内容物の確認作業を行いました。

## 安全のために、分別の徹底を！

主な事故の原因は、不燃ごみ中のボンベやリチウムイオン電池などの電池類が考えられますが、これらは本来有害ごみで出すべきものです。

武蔵野市は、事故の様子や正しい分別を市報やむさしのFM、ホームページなどで、繰り返し市民に周知しています。



破砕機に入れる前に収集した不燃ごみを広げて、有害ごみを取り除く展開検査をしたら……



約70トンの不燃ごみ中に、859キログラムの有害ごみが混入！



リチウムイオン電池類(有害ごみ)もたくさん入っていました。

# リチウムイオン電池の火災にご注意！

充電式の家電製品には、リチウムイオン電池などが使われています。

リチウムイオン電池は、**力が加わると激しく発熱・発火する危険**があり、全国で事故が頻発しています。新しいクリーンセンターの事故の原因の中のいくつかは、不燃ごみ中に混入したリチウムイオン電池がごみを破砕する時に発火し、火災の原因になったと推測されます。ごみとして出すときだけでなく、ふだんでも扱いに気をつけましょう。

## 安全のために **きちんと** ごみ分別をお願いします！

**「有害ごみ」を不燃ごみに入れると危険です。絶対に不燃ごみに入れないでください！**

## リチウムイオン電池の処理方法

- 電池は取り出し、指定の有害ごみ袋に入れて、出してください。
- ▶電池が取り出せない場合は、本体ごと有害ごみ袋に入れて出してください。
- ▶指定袋に入らない場合は、「有害ごみ」と書いた透明な袋に入れて出してください。
- ▶有害ごみ袋は、市役所のごみ総合対策課、コミュニティセンターなどで、無料で配布しています。
- 家電量販店の回収ボックスを利用しましょう。
- ※回収ボックスを設置しているか、事前に店に問い合わせてください。

正しく分別すれば、ニッケルなど、貴重な金属資源をリサイクルすることができます。

